企業行動研究部会議事録（第 279 回）

日　時：　平成 31 年 11 月 11 日(月)　18:00－20:00

場　所：　中央大学駿河台記念館 3 階　310 号室

出席者：　上原利夫　勝田和行　河口洋徳　北川則道　西藤輝　櫻井功男　佐久間健　出口純輔
野崎篤彦　野瀬哲郎　菱山隆二　古山英二　松尾 實 峰内謙一　　１４名

１．連絡事項：理事会開催（11 月 8 日開催）概要報告等

勝田部会長より、開会が宣言され第 168 回理事会概要について報告があった。

①新入退会の件、入会 1 名、退会 1 名、合計 476 名

②2020 年度（第 28 回）研究発表大会統一論題決定の件

6 月 19 日～21 日（初日工場見学等を計画予定）、開催場所；常葉大学　静岡キャンパス予定
統一論題：「外国人労働者と経営倫理」

③学会英文呼称決定の件：企業行動研究部会は Corporate Behaviors SIG

④第 11 回経営倫理シンポジウムの件：2020 年 2 月 28 日 13:30～　拓殖大学
テーマ「経営倫理とコーポレートガバナンス：ジェンダー平等の推進を考える」

⑤学会誌 27 号記載論文審査経過報告の件：進捗報告・今後査読委員分担拡大の推進、論文、論説、研究ノートへの提出時申告制度などの規程化検討など。

⑥上期監査報告の件: 略

⑦第９回 CSR 構想インターゼミナール開催日程変更の件：2020 年 1 月 11 日に延期開催。

⑧関連団体に関する情報共有の件：経済学会連合等の活動への積極的参加と制度活用計画

⑨学会役員候補者推薦制度の件：規程化・ルール化について執行部及び事務局を中心に検討

⑩本年度の理事会/研究交流例会等の開催日程再確認

２月８日（土）11：30～理事会　研究交流例会 13：30～
４月 25 日（土）11：30～理事会　研究交流例会１３：30～

⑪潜道会長より、ACBEE 主催の第 14 期初級「経営倫理士」募集協力要請（三位一体の実現）

同じく勝田部会長より、この間のテーマ発表依頼につきお願いしていましたところ、複数の会員よりテーマについての発信報告を頂いたことが紹介され、併せてさらに適宜報告テーマだしをお願いするとの発言があり、テーマ報告に移った。

２．テーマ１．中小企業の経営倫理・・・野瀬部会員

＜報告骨子＞

１．　日本の会社の数は？　略

２．　中小企業が抱える問題点

①　慢性的な人手の不足、新規採用難

②　低い労働生産性

③　事業継承　（経営者の高齢化と後継者不足問題）

３．　問題点に対する対応

①　働き方改革、

②　IT 化やクラウドソーシング等の活用による生産性の向上

③　M&A による事業継承

４．　中小企業に於ける経営倫理・コンプライアンス経営

Ⅰ　≪野瀬が実際に体験した/している中小企業 2 社の事例≫

① A社

② T社

Ⅱ 一般状況

・中小企業は大企業と比べ、資金や人材に余裕がなく、たとえ経営者がコンプライアンス経営の意識を持っていたとしても、具体的に実現するための人員や資金を振り向けることが困難な場合が多い。

・コンプライアンスに関する情報が十分では無いため、いかにしてコンプライアンスの体制を整備したらよいのかがよく分からないケースも多い。

・とはいえ、以前起きた食品偽装問題や、粉飾決算、詐欺事件等は中小企業でも発生しており、中には経営を断念せざるを得ず破産に追い込まれるケースも出ている。

≪過去に起きた中小企業の不祥事実例≫ 略

Ⅲ 総括

極めてありきたりの総括になりますが、コンプライアンスは大企業だけのものではなく、中小企業は中小企業なりの“身の丈に合った”やり方でコンプライアンス体制構築が必要

＜質疑・意見交換＞

・興味深いお話しであった。65 年間に本田もソニーも大企業に発展した理由はどこにあると思うか？
⇒それぞれの経営者の野心や意欲ではないか。

・大企業になった方が便利ではないか？
⇒実態は逆で中小のままでいた方が様々な補助・支援を受けられるため、あえて減資を行うこともある。

・例えば、（公財）東京都中小企業振興公社などは、様々な補助制度に加え多くの課題（例えば海外進出）でのセミナーや相談、さらにマーケティングなど対応が手厚く、中小企業にとどまる方が有利との考えもある。

・日本の企業数約 450 万社で半分が法人と書いてあるが、法人がもっと多いと数えていたが？
⇒資料によると様々あり、明確な根拠は現在不明

・アトキンス氏によると、中小企業の今後の課題は、優秀な人材を優遇しないと将来に向けた発展がないと言っているが、如何か？ ⇒競争より妬みの文化が残り難しい面があると思う。

・身の丈にあった・・・との話があったが、例えば注射針の岡野工業など、規模より誇りを大切にする良い会社が多いと思う。珠洲の能作なども。

・現在の中小企業は、ユニークな技術を蓄え地道に発展してるところはあるが、後継者の問題はやはり大きい。

・実際の中小企業就業者の多くは大変厳しい条件と将来への不安を常に抱えている。

・例えば戦後の成長企業の代表格の京セラなどは、人を大切にする思想が徹底しており、夢をもって進む企業もある。

・上海のある会社が、稲森氏の本を読み合わせて事業を進めているところがあったが、大変うれしく思った。

・きれいごとで済ませるべきでないこともあるので、今後とも継続して取り組んでもらいたい。

・関連会社子会社と言われる中小企業もあるが元来の中小企業との差も課題。

以下略

３． テーマ２．「現代ビジネス奴隷とは」（英国現代奴隷法）・・・佐久間部会員

＜発表骨子＞

はじめに

前段部　略

現代奴隷がクローズアップされたのは、様々な有力組織が数年前からグローバル企業への人権対応促進のキャンペーンを行っているからだ。それには理由がある。2015 年 6 月、ドイツでの G7 サミットで各国首脳が表明した「**責任あるサプライチェーン」促進への支持、「持続可能な開発目標（SDG s）」が採択され、また「英国現代奴隷法」が 2015 年に施行され、フランスでは 2017 年に「人権デューデリジェンス法」が制定**されたなどが理由である。さらに投資家による企業の人権ベンチマーク（CorporateHumanRightsBenchmark）の活動は、企業に人権尊重の責任を果たすことを強く要求している。私は、このセミナーに参加した。

１．世界の奴隷労働の実態

２．今までの企業の人権問題への取り組み

３．CSR を促進したナイキの児童労働・強制労働事件

４.資源開発に関する児童労働・強制労働

（１）紛争鉱物

（２）児童労働と資源開発

５．「国連ビジネスと人権に関する指導原則」からＣＳＲへ

６．英国現代奴隷法（Modern Slavery Act）とは

７．英国がいう現代奴隷の事例

８．日本企業の英国現代奴隷法に基づくステートメントの開示状況

９．人権デューディリジェンス

10．国際人権に関するベンチマーク CHRB（Corporate Human Rights Benchmark）

11．フランス人権デューディリジェンス法の制定・施行

最後に

不正な手段でも金が欲しいという者は後を絶たない。でも現代ビジネス奴隷は許されない悪行である。現代ビジネス奴隷排除に対する日本企業の動きは鈍い。でも、危機対策として企業は、人権デユーデリジェンスの促進と具体的な人権対応の促進が必要だ。それを行わないと日本企業は何もしていない無関心企業のレッテルを張られてしまう。ボイコットが起きる可能性もある。日本企業の経営者は、人権問題が自分たちにとって深刻な問題であるという意識が低い。ビジネス奴隷の排除には国としての行政対応も必要だが、日本政府の動きは鈍い。NGO の監視は行政の監視よりも厳しく、問題が起きるとグローバルな非難キャンペーンを展開する。NGO やマスコミの標的にならないと、ほとんどの日本企業は現代ビジネス奴隷対応を行動に移すことはないかもしれない。

以上

＜質疑・意見交換＞

・大きな問題について教授頂き感謝する。一つ確認したい点はこうした労働者についての管理責任がどこにあるのか？という点である。

⇒現地の国などが管理しきれていない例も多々あり（闇の部分）国の管理責任云々では済まされない部分もある。

・こうした問題は程度は別にして従来から

・日本企業も、日本政府も何もしていないという現状をどうすべきなのか？
⇒計画書を作って進めるべきというまで決まっている。域外適用についての認識が広く政府や企業に浸透していないことが問題。
・まずは自らの方向付けを宣言し、努力していることが重要とされる考え方で、現在日本の企業の数十社は対応していると言われるが、全体には極めて遅れているとの指摘がグローバルにされている。
・SDGｓへの取組と同様に、もっとオープンに取り組むべき課題である。

以下略

４．　テーマ３．「企業不祥事と倫理学」・・・古山部会員
当日は時間が無くなったため、次回に持ち越すこととした。

５．その他
12 月 9 日（月）から会場は BERC となるので注意を頂きたい。

以上

議事録送付先(敬称略)：
[部会員]：秋山和久 安藤 顕 石川英男 井上真由美 岩倉秀雄 上原利夫 遠藤梨栄 大泉英隆 大沼久美 岡本伊万里 岡田佳男 小澤彩子 小畑哲哉 片方恵子 勝田和行　加藤隆一 河口洋徳 川村正彦 北川則道 木下博生 銀山一浩 熊本一夫 熊本えり 栗栖徳雄 桑山三恵子 剣持 浩 小池裕子 小池恒平 小松久夫 小松昌子 近藤成径 西藤輝 櫻井功男 （順不同） 佐久間健 佐藤陽一 柴柳英二 潜道文子　高橋太一 武谷　香 田村尚子 出口純輔 徳山 誠 永井郁敏 那須一貴 西村秀美 根本三千夫 野崎篤彦 野瀬哲郎 比賀江克之 樋口晴彦 肥後文雄 菱山隆二 平塚　直 古谷由紀子 古山英二 堀場政行　増澤洋一 増渕隆史 松尾 實 松本邦明 丸山千賀子 宮澤直幸 峰内謙一 向井恒泰 森田　充 森　敦子 森下和代 山中 裕 山本明男
[学会本部]：潜道会長　梅津前会長　水尾前副会長　高橋元会長　内田事務長